

Press Release(H28/8/)

「岐阜の石積み学校 2016」を開催します

～ 全国でも珍しい合宿形式プログラムで、学生や社会人が石工技術を学びます ～

岐阜大学工学部社会基盤工学科の出村 嘉史准教授（景観計画、都市形成史）が、8月10日（水）より4日間、中津川市にて下記の体験プログラム「岐阜の石積み学校 2016」を開催します。

本プログラムは、昨年8月に実施された「岐阜の石積み学校」の成功をうけて、継続的な実施のために昨年度に引き続いて開催するもので、中津川市神坂にお住まいの石工・洞田 由夫氏が講師となり、現存する石積みの修復（解体し、再構築する）の実践を行います。

先人たちが残してくれた「石積み」（空石積み）は、山から土砂が流出するのを防ぎ、一次産業や生活の動線を支え、日本の風景を美しく価値のあるものになっている重要な資源です。そして、手で積むことのできる石積みは、人の手が関わり続けさえいけば、ほぼ永久に保つことのできる持続可能な方法です。しかし、この技術は、最近ではほとんど使われなくなっているため、今、放っておくと失われてしまいます。

そこで、岐阜大学からもこのことについて発信し、技術を学ぶ全国の学生や若手社会人を対象にして、石積みを経験するプログラムとして、「岐阜の石積み学校」を開催することにしました。

ついては、当日の取材についてよろしくお取り計らい願います。

記

○日にち：平成28年8月10日（水）～13日（土）

時間帯は日によって異なりますので、別紙プログラムを参照願います。

○場所：中津川市神坂恵下地内市道神坂11号線（詳細は別紙プログラムを参照願います。）

○参加者：大学生9名、社会人6名（スタッフ2名を含む）

○講師：石工（中津川市神坂に在住）洞田 由夫氏

○実施体制

主催：岐阜大学工学部社会基盤工学科 准教授 出村 嘉史

協力：NPO法人パイオニア 曾我 亘之

（2ページ目に続きます）

○詳細、プログラムのねらい等

中津川市神坂で、中津川市神坂事務所や神坂活性化協議会のご協力を得て、市道の傍らにある擁壁面で実践的な石積みを行います。

2 /

地域に対しては、重要な生活基盤を維持する御手伝いになるばかりでなく、技術継承のきっかけ、当地の地域的魅力の発信など多面的に貢献することになります。

大学としては、超域的な交流の場づくりとなり、実践的な教育の機会が得られ、次世代に必要な、視野が広く実践力の高い人材育成ができます。

受講生は、上記実践を通して、技術の実践や成し遂げるためのチームワークづくりのトレーニングになるばかりでなく、地域社会を支えるために必要な実践的知恵を学ぶことができます。

参加者は、学生 9 名（岐阜大学の他、大同大学、神戸大学）、社会人 6 名（大学関連の他、造園業、地域おこし協力隊、左官業など）の予定です。石積み体験をするプログラムは、全国でも少しずつ始まっているようですが、全国の若者を対象にして合宿形式で行うことは、あまり多くありません。（徳島で実施されている同様のプログラムは、グッドデザイン賞を受賞しています）。

【本件に関する問い合わせ先】

岐阜大学工学部社会基盤工学科 准教授 出村 嘉史

電話：058-293-2446

E-mail：demu@gifu-u.ac.jp